

ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部 会 名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記録者	福田(クリーンセンター)
開催回数	第3回			池崎(環境モデル都市)
開催日時	平成21年7月31日(金)18時30分～20時50分			
開催場所	クリーンセンター			
出席者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	教育旅行プランニング	森山
	熊本学園大	西村	水俣自然学校	小里
	市議会議員	中原	商工観光室	光田
	婦人会	前田	環境対策課	岡本
	リサイクル推進委員	桑畑	クリーンセンター	井上・有村・福田
	茶生産者	松本	環境モデル都市推進課	川野・池崎
	エコタウン協議会	田中		
	出席者 計			計 18 名
欠 席 者	水光社	廣田	市議会議員	西田
	エコネットみなまた	山下	欠席者 計	3 名
決定事項	・「ゼロ・ウェイスト宣言」作成のための作業部会を設ける。 メンバーは、藤本、岡本、小里、田中、永野の5名。作業部会を開催する際は、円卓会議メンバーに呼びかける。円卓会議の場で意見を言うことも可能。 ○ 第一回目の作業部会日程:8月17日 16:00～ ・ゼロ・ウェイストに向けた取り組みについても、今後円卓会議で検討する。 ・(提案)フェスタ会場に参加自治体のブースを設け、パネル等を展示してもらうのはどうか。 ・ごみステーション調査では、市民調査員を募集し、調査に参加してもらう。 ・Kubotaの技術者の方が来て、廃プラを活かしたごみ処理の方法について提案する。 希望者は参加可能。 ○ 8月18日(火)14:00～ @環境センター1階会議室 ・ゼロ・ウェイスト活動への協力校・団体への感謝状の文面は次回の会議で検討する。			
次回日程	平成21年8月24日(月) 18時～ @クリーンセンター			
内 容	1. 前回の確認 2. 活動内容の整理 事務局)当面このメンバーで活動を進めていく。各団体のこれまでの活動等、参考にしてもらえれば。足りないメンバーがあれば、必要に応じて要請することができる。将来的には一般公募も考えていく。 3. 環境モデル都市フェスタ 環境モデル都市推進課)企画概要説明。 環境対策課)主にゼロ・ウェイスト宣言の文案を見てもらいたい。これはあくまでもたたきである。皆さんからご意見をいただきたい。ゼロ・ウェイストの基本的な考え方と中身は、資料を見てもらいたい。ゼロ・ウェイストに向けての課題のひとつに、可燃ごみがある。可燃ごみの組成調査をした際に、資源ごみとして分別すべきものが半分以上含まれていた。ゼロ・ウェイスト宣言は、上勝町の『ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)宣言』、大木町の『大木町もったいない宣言』との差別化を図るために、『水俣市民ゼロ・ウェイスト(〇〇〇〇)宣言』という風にし、〇〇〇〇の部分にわかりやすいキャッチフレーズを入れたらどうかと考えている。上勝町(徳島県)、大木町(福岡県)は既にゼロ・ウェイスト宣言をしており、町田市(東京都)、葉山町(神奈川県)はゼロ・ウェイストを目指して活動を始めているところである。 事務局)パネルディスカッションのパネリストに町田市は入っているのか。 環境対策課)町田市長は欠席との連絡があった。代理出席の話もあったが、他自治体は市長が出席するで、首長だけに限定しようかと思う。 ● そうであれば、メッセージをいただくというのはどうか。 環境対策課)ぜひお願いしたい。 事務局)上勝町長は当日水俣入りするので、首長みんなが顔を会わせるような機会を設定してもらえ			

れば。

- 後援ではなく、主催に自治総合センターが入っているのはなぜか。

環境モデル都市推進課)先方からそのような要望があった。企画の中身には口は出さない。

- 環境モデル都市フェスタのチラシはもうできているのか。夢を持てるようなものにしてほしい。

事務局)会場にパネルを設置し、パネルでも各自治体の取り組みを紹介してもらうということをお願いしたらどうか。

- モニターを置いて、ビデオで上映するのもよい。

事務局)上勝町のゼロ・ウェイストアカデミーもフェスタに参加するとのことだったので、ブースをもらえれば何かしてもらえるのではないかな。以前は、こいのぼりのリメイクをするおばあちゃんを呼んだり、体験スペースを設けたりした。

- 水俣市民に、他自治体では面白そうな取り組みをしていると思ってもらえればよい。

事務局)フェスタの全体の流れは、企画案のとおりでよいかな。

- 当日に「給茶スポット」はできないか。

事務局)案内チラシに「マイカップまたはマイ水筒をお持ち下さい」の一言を入れるとよい。最近、廃棄物学会では事前にそのようなインフォメーションをしている。

- 今回は環境学習円卓会議の代表として参加した。現在Rびんの取り組みを行っており、今年はRびんの提灯をつくろうと思っている。ちょうちんの裏側にはメーカー名が入るので、メーカーが協賛に入る。現在、地元の食材を50%以上利用している居酒屋さんでは、赤提灯ではなく緑色の提灯を吊るすといった取り組みもある。Rびんのちょうちんをフェスタの中でお披露目できればと考えているので、できたら展示ブースを設けてもらいたい。

別件で、資料の「廃棄物処理に関する歩み」にエコタウンが抜けているので、加えてもらいたい。

- 水光社まえても、ペットボトルとLEDでつくったエコ提灯を吊るしている。人目をひくし、ぜひやってもらえれば。

- Rびんの提灯は、地球をイメージして、緑の丸型を考えている。裏側にメーカー名。

- 水俣市以外でもう既にやっているのか。

- 鹿児島でされている。この取り組みを西九州からスタートさせたい。

事務局)ゼロ・ウェイスト宣言案についてはどう思うか。

事務局)形が先行してしまっていて、オリジナリティがない。この円卓会議の場でもっと時間をかけて考えるべきではないか。なぜ水俣市がゼロ・ウェイストなのか、それには大きな意義があると考えている。ゼロ・ウェイストは一つの町で取り組んでも、どこかで頭打ちになってしまう。世の中全体で取り組まないと達成できない。現在、大木、町田が宣言をしており、葉山、町田が宣言すれば日本で5つの自治体が宣言をしていることになる。上勝がゼロ・ウェイストで注目されたのは、日本で最も多い34分別を行っていることと、「ゼロ・ウェイスト宣言」を最初にしたこと自体、オリジナリティだったから。しかし、個人的には上勝はゼロ・ウェイストに失敗したと思っている。3年前からHPIは一度もリニューアルされておらず、政策としての行動ができていない。水俣市だけの話ではなく、停滞している上勝に刺激を与えること、ゼロ・ウェイストの取り組みを日本全体に広げていききっかけになれる。また、これまで宣言をした自治体は、上勝は山手、大木は平地というように、町の地形が均一的だった。水俣は海、山、町、工業地がある等多様性に富んでいる。これは政策を行ううえで難しいことである。また水俣病も大きな意味を持っている。

その水俣でどのような宣言をするかは非常に大事。

環境対策課)今日資料として出したゼロ・ウェイスト宣言は、あくまでもたたきである。皆さんの意見をもらって、ゼロからでもつくりたい。

- 実際にどのように宣言をつくっていくのか。この円卓会議で考えていくのであれば、このなかで作業部会をつくり、たたき台をつくっていくのはどうか。

事務局)円卓会議のなかでこの中身を詰めていくことは難しい。実質的にも、その作業部会をつくって進めていくことになるかと思う。作業部会を設けて、そのなかで議論してってもらえれば。

- 資料9の「ゼロ・ウェイスト実現までの目標及びプロセス」についても、円卓会議のなかでもっと練っていくということでよいかな。

環境対策課)どんどん提案していただければ。

事務局)各メンバーの課題の部分をもう少し入れていけばよいのではないかな。

- 資料9の②中期目標にあるごみ燃料化施設とはなにか。RDFのことかな。

環境対策課)可燃ごみのなかでも燃料になるようなものは取り出して、燃料化しようというもの。

- いろんな問題があって、導入した自治体は困っているようだが。

事務局)Kubotaでは豊島で不法投棄された生ごみをスラム化して撤去しようという取り組みを行っている。その技術者の方が8月18日に水俣に来られる。Kubotaで熔融炉に40年間取り組んでこられた方で、日本のごみ政策を再度考えるため、日本全国の市町村の動きを考察されている。当日は、10時からごみ女連の会議で話を聞き、午後からは、廃プラを活かしたごみ処理の方法を提案したいとのこと。午後の部は、14時からクリーンセンターにて。

● 大木町と鹿児島県大崎町は、一人あたりのごみ処理経費が出ているが、水俣市はどの程度か。

クリーンセンター)正確な値は覚えていないが、一人2万円程度。ただし、水俣市の場合は、このなかに下水道処理代も含まれているため、単純には比較できない。可燃ごみは1万2千円程度。水俣市のごみ処理費用は全国と比べても高い。燃えるごみの量が減れば、費用も下がる。

● 資源ごみも会計化していくと、水俣市のごみ会計が見えてくる。ゼロ・ウェイストにするための計算式も水俣方式として出していければよい。

クリーンセンター)全国実態調査の値を用いれば、統一的な数値が出てくるのではないか。

事務局)ゼロウェイスト宣言については、作業部会でその中身を検討していく。作業部会への参加を希望する藤本、岡本、小里、田中、永野の5名で方向性を決めてもらい、作業部会への参加は全体に呼びかけてもらう。他のメンバーでも、円卓会議の場で意見を出すこともできる。

4. 「みなまた給茶スポット」進捗状況の報告及び8月市民講座の案内について

事務局)水俣芦北地域振興基金のプレゼンを来週行う。前回話した内容で進めていく予定。

● 食品営業許可申請書をもらってきたが、グリーンスポーツでも喫茶なら可能とのこと。さしあたり喫茶の許可申請を出す予定である。

● クリーンセンター農場では、お茶をびんで出す取り組みを始めようとしている。Rびんと平行して、今年度中にリユースびんのお茶を出していくことも取り組んでいきたい。300mlで120円、20円のデポジットを考えている。20本入りの回収ボックスも既に作成している。居酒屋の和民では、清酒びんをRびんに変える取り組みを首都圏から始めようとしている。九州版ではお茶ということで、給茶スポットとも並行して進めていきたい。

事務局)8月25日に給茶スポットとおいしいお茶の淹れ方についての市民講座を開催する予定。参加をお願いしたい。

5. ごみステーション調査について

事務局)前回の円卓会議では、ごみステーション調査(案)について説明した。水俣には約300のごみステーションがあり、小さな地域社会が運営している。それを見ていくことで、水俣のごみ政策を考えられないか、というもの。リサイクルを進めるだけでは、ごみは減らず頭打ちになる。しかし、みなまたのごみ政策はリサイクルが中心。調査の結果から今後のごみ政策について考えられれば。

調査は二段階の調査(ステーション調査⇒聞き取り)を考えている。今回の円卓会議までに、ステーション調査の予備調査(1)を行い、それに基づいて調査表を作成した。また、その調査票を用いて予備調査(2)を行った。

次回の円卓会議までに再度予備調査を行いたいと考えている。そして、第一段階のステーション調査をいつまでに、どのようなメンバーで実施するか、といったことを提案したい。3月までにはまとめたいと考えている。

事務局)雨天時の調査も大事である。雨天時に対応したごみ出しの仕組みがあるかどうか、ごみ出しに影響するのではないか。また、予備調査(1)を行った初野地区では、資源の日には人は集まるが、廃プラの日には人手不足で大変だそうだ。資源の日と廃プラの日の違いも見るとよい。

● 調査票に年齢層も入れるとおもしろい。初野地区では年齢層が高く、丁寧に仕事をしていた。また、ごみを出した後にすぐ帰るということが少なかった。

● 水俣には外国人もいる。流入者への指導はどのようになされているのか。分別表はどのような言語のものがあるのか。実際にそれを外国人世帯に配布しているのか。

クリーンセンター)英語のものがあるが、視察対応で、実際に外国人世帯に配布はしていない。

● 水俣には外国人の奥さんも多いので、外国人向けのごみ案内をつくってもらえればよい。

環境モデル都市推進課)調査に市民も参加してもらおうとよい。ごみを減らすことにもつながると思う。

事務局)もう一度予備調査を行い、調査マニュアルと調査票を作成する。実際に調査を行う際には、市民調査員を募集したい。

6. ゼロ・ウェイスト協力校・団体への感謝状授与について

環境モデル都市推進課)水俣教育旅行プランニングから提案があった感謝状の件について、企画案を作成したので、ご意見をいただきたい。

● 企画の名称はすっきりと受けとめられる言葉を考えたい。エコスマイルプロジェクト(ESP)についても同様。噛み砕いてわかりやすい言葉をつくる必要がある。感謝状の文面も、水俣らしいものにしたい。

環境モデル都市推進課)感謝状の文面については、次回の会議で皆さんに見ていただきたい。

